

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	飯田コアカレッジ
設置者名	学校法人コア学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	IT スペシャリスト学科	夜・通信	658	160	
商業実務専門課程	IT ビジネス学科	夜・通信	1031	160	
	IT 医療事務学科	夜・通信	705	160	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学生便覧・授業概要（シラバス）掲載し、学生に配布する他、ホームページと学校窓口に掲出して一般に公開。 https://www.core.ac.jp/iida/download/jitumu_keiken_itiran.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	飯田コアカレッジ
設置者名	学校法人コア学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページで公開 https://www.core.ac.jp/iida/download/riji20230601.pdf （「学校の概要・目標計画」内の「理事一覧」）
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	(株) クリエイティブ・トゥエンティワン取締役	令和 5. 6. 1 ～ 令和 7. 5. 31	コンプライアンスや経営方針、業務ルールの順守並びにリスクマネジメントなど、ガバナンスのための機能向上を図る役割
非常勤	市長	令和 5. 6. 1 ～ 令和 7. 5. 31	コンプライアンスや経営方針、業務ルールの順守並びにリスクマネジメントなど、ガバナンスのための機能向上を図る役割
非常勤	商工会議所会頭	令和 5. 6. 1 ～ 令和 7. 5. 31	コンプライアンスや経営方針、業務ルールの順守並びにリスクマネジメントなど、ガバナンスのための機能向上を図る役割
非常勤	みなみ信州農業協同組合代表理事組合長	令和 5. 6. 1 ～ 令和 7. 5. 31	コンプライアンスや経営方針、業務ルールの順守並びにリスクマネジメントなど、ガバナンスのための機能向上を図る役割
非常勤	(株) シージー・エンタープライズ代表取締役	令和 5. 6. 1 ～ 令和 7. 5. 31	コンプライアンスや経営方針、業務ルールの順守並びにリスクマネジメントなど、ガバナンスのための機能向上を図る役割
(備考) 任期：令和5年6月1日～令和7年5月31日			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	飯田コアカレッジ
設置者名	学校法人コア学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>シラバス作成時期】 前年度3月</p> <p>【シラバス作成過程】 次年度カリキュラムが決定したところで、教科担任が作成することとなっている。また、作成にあたり、「到達目標」を明確に記載し、学生が理解度とステップアップを実感できるよう Step1 から Step3 まで段階的な短期目標を記載するよう申し合わせている。</p> <p>【授業計画の作成】 前年度の1月から3月に次年度のカリキュラムを決定し、教育方針に則ってシラバスを作成し、新学期のオリエンテーションの際に学生全員に配布する他、学校窓口に掲出して一般に向けて活用方法を説明している。また、目標設定シートに各自の目標等を記載し、月ごとに達成度と半期ごとの振り返りを実施している。</p> <p>【公表時期】 HP 公表・窓口掲出：当該年度4月</p> <p>【授業計画の公表方法】 学科ごとにHPで公開ならびに、授業概要(シラバス)の冊子をオープンキャンパスで紹介するとともに、希望者には提供している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>学生に配布する他、学校窓口に掲出して一般に公開。</p> <p>URL：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IT スペシャリスト学科 https://www.core.ac.jp/iida/download/82b9229d37a15d1421afb5d9b14b082d788b5199.pdf ・IT ビジネス学科 https://www.core.ac.jp/iida/download/6e0b0875ffb3cff32e69600b1078a90f1dfed228.pdf ・IT 医療事務学科 https://www.core.ac.jp/iida/download/9be05225e2f4d536e8e061675f55cc25ec0a23f9.pdf
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>前期期末試験を8月、後期期末試験を2月に実施し、成績の評価を行う。 評価基準は100点を満点とし、50点以上を合格とする。ただし、評価は単に試験の成績だけで決定されるものではなく、原則として、すべての授業について出席を満たしていることとし、試験の成績や平素の学習状況から総合的に評価するとともに、進級・卒業認定会議において、厳格かつ適正に単位授与又は履修認定を実施して決定している。</p>													
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>													
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>評価基準は100点を満点とし、50点以上を合格とする。ただし、評価は単に試験の成績だけで決定されるものではなく、原則としてすべての授業について出席を満たしていることとし、試験の成績や平素の学習状況から総合的に厳格かつ適正に評価する。</p> <table border="1"> <tr> <td>80点以上</td> <td>100点まで</td> <td>優</td> </tr> <tr> <td>70点以上</td> <td>80点未満</td> <td>良</td> </tr> <tr> <td>50点以上</td> <td>70点未満</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>50点未満</td> <td></td> <td>不可</td> </tr> </table> <p>履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する。 (100点満点点数化)</p> <p>あらかじめ設定した指標により成績評価を適切に実施している。</p>		80点以上	100点まで	優	70点以上	80点未満	良	50点以上	70点未満	可	50点未満		不可
80点以上	100点まで	優											
70点以上	80点未満	良											
50点以上	70点未満	可											
50点未満		不可											
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>学生便覧に掲載 学校窓口に掲出して一般に公開。 ホームページにて公開 https://www.core.ac.jp/iida/download/seisekihyouka-kijun_2019.pdf</p>												
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>													
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>【卒業方針 (ディプロマポリシー)】</p> <p>教育目標に沿って設定した科目を履修し、企業における専門職として必要な知識・技術・技能を有し、社会的・職業的自立に向けた基礎的な能力や態度を身につけて自ら学び続ける能力と、社会・地域に貢献できる能力を備えたものに専門士を授与するものとし、卒業に関する方針や学生の習得単位数を踏まえて卒業認定会議において評価し卒業を認定している。</p>													
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>ホームページにて公開 https://www.core.ac.jp/iida/download/2019_admission_curriculum_diploma_policy.pdf</p>												

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	飯田コアカレッジ
設置者名	学校法人コア学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.core.ac.jp/iida/download/R4_taisyaku.pdf (「学校財務」の「貸借対照表」)
収支計算書又は損益計算書	https://www.core.ac.jp/iida/download/R4_jigyokatudou.pdf (「学校財務」の「事業活動収支計算書」)
財産目録	https://www.core.ac.jp/iida/download/R4_zaisanmokuroku.pdf (「学校財務」の「財産目録」)
事業報告書	https://www.core.ac.jp/iida/download/R4_jigyohoukoku.pdf (「学校財務」の「事業報告」)
監事による監査報告(書)	https://www.core.ac.jp/iida/download/R4_kansahoukoku.pdf (「学校財務」の「監査報告書」)

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	ITスペシャリスト 学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年		1,890 単位時間/単位	388 単位時間 /単位	1,502 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		52人	0人	4人	11人	15人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>【教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）】</p> <p>専門的な知識・技能の習得を目指した主体的な学びを通して個々の能力を育成し、社会人として求められる豊かな人間性を養成できるカリキュラムを編成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> キャリア教育を通して社会人基礎力と職業観の養成を図る 探究学習における様々な体験をして豊かな人間性を養う 企業ニーズに応える専門的な知識と技能の基礎を確実に習得 <p>また、学生が科目ごとに設定された目標を常に意識しながら、ステップアップを実感できるよう「目標達成型カリキュラム」を導入し、Step1からStep3まで段階的に短期目標をシラバスに明記している。また、目標設定シートに各自の目標等を記載し、月ごとに達成度と半期ごとの振り返りを実施している。</p>

成績評価の基準・方法
評価基準は 100 点を満点とし、50 点以上を合格とする。ただし、評価は単に試験の成績だけで決定されるものではなく、原則としてすべての授業について出席を満たしていることとし、試験の成績や平素の学習状況から総合的に厳格かつ適正に評価する。
卒業・進級の認定基準
進級および卒業は次の 2 条件を満たした者に対して認められる。 ①出席条件：半期を通して、欠席時限数が 1/3 を超える欠席科目が一つもないこと。 ②成績条件：各学年の必須単位をすべて修得すること。 また、卒業認定については、教育目標に沿って設定した科目を履修し、企業における専門職として必要な知識・技術・技能を有し、社会的・職業的自立に向けた基礎的な能力や態度を身につけて自ら学び続ける能力と、社会・地域に貢献できる能力を備えたものに専門士を授与するものとし、卒業に関する方針や学生の習得単位数を踏まえた上で認定をする。
学修支援等
成績評価の時点で、合格に至らない者に対しては追・再試験、補講等を行う。放課後や長期の休みも教室を開放するとともに、教員がサポートをする。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
20 人 (100%)	0 人 (0%)	20 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 地元のものづくり企業など工業系やソフトウェア系などの業界において、プログラミングや CAD 等習得した技能を活かせる業界			
(就職指導内容) ジョブ・カードの作成や校内就職ガイダンスを通して職業観の養成を図り、早期にキャリアビジョンを明確にする。また時機に合わせた履歴書、面接指導等			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 基本情報技術者試験・IT パスポート・C 言語/Java プログラミング能力認定試験・QC 検定・MOS			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
45 人	1 人	2.2%
(中途退学の主な理由) 進路変更による退学。複数回の面談を実施し、本人の意思を尊重し、退学となった。		

(中退防止・中退者支援のための取組)
・担任や教科担当による情報共有により、早めに問題傾向に気付く体制を整えるとともに、学生に対する声掛けを実践することで、学生が相談しやすい環境をつくる。また、保護者との面談を積極的に行い対応していく。
・不登校傾向、人間関係の構築が苦手な学生に対して、クラス全体と一緒に卒業を目指すことを意識できる雰囲気を、教職員が誘導するなど、積極的に支援をしていく。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	IT ビジネス学科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年		1,830 単位時間/単位	420 単位時間 /単位	1,430 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		41人	0人	4人	11人	15人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>【教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）】</p> <p>専門的な知識・技能の習得を目指した主体的な学びを通して個々の能力を育成し、社会人として求められる豊かな人間性を養成できるカリキュラムを編成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キャリア教育を通して社会人基礎力と職業観の養成を図る 2. 探究学習における様々な体験をして豊かな人間性を養う 3. 企業ニーズに応える専門的な知識と技能の基礎を確実に習得 <p>また、学生が科目ごとに設定された目標を常に意識しながら、ステップアップを実感できるよう「目標達成型カリキュラム」を導入し、Step1 から Step3 まで段階的に短期目標をシラバスに明記している。また、目標設定シートに各自の目標等を記載し、月ごとに達成度と半期ごとの振り返りを実施している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>評価基準は 100 点を満点とし、50 点以上を合格とする。ただし、評価は単に試験の成績だけで決定されるものではなく、原則としてすべての授業について出席を満たしていることとし、試験の成績や平素の学習状況から総合的に厳格かつ適正に評価する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>進級および卒業は次の 2 条件を満たした者に対して認められる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①出席条件：半期を通して、欠席時限数が 1/3 を超える欠席科目が一つもないこと。 ②成績条件：各学年の必須単位をすべて修得すること。 <p>また、卒業認定については、教育目標に沿って設定した科目を履修し、企業における専門職として必要な知識・技術・技能を有し、社会的・職業的自立に向けた基礎的な能力や態度を身につけて自ら学び続ける能力と、社会・地域に貢献できる能力を備えたものに専門士を授与するものとし、卒業に関する方針や学生の習得単位数を踏まえた上で認定をする。</p>

学修支援等
成績評価の時点で、合格に至らない者に対しては追・再試験、補講等を行う。放課後や長期の休みも教室を開放するとともに、教員がサポートをする。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
16人 (100%)	1人 (6%)	15人 (94%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 地元のものづくり企業等工業系の生産管理およびCADによる設計業務、公務員、サービスの営業等習得した技能を活かせる業界			
（就職指導内容） ジョブ・カードの作成や校内就職ガイダンスを通して職業観の養成を図り、早期にキャリアビジョンを明確にする。また時機に合わせた履歴書、面接指導等			
（主な学修成果（資格・検定等）） ITパスポート・秘書技能検定・リテールマーケティング（販売士）・日商簿記・会計実務・QC検定・MOS・電卓技能・介護職員初任者研修			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
39人	2人	5.1%
（中途退学の主な理由） 2人とも体調不良による退学。複数回の面談を実施し、本人の意思を尊重し、退学となった。		
（中退防止・中退者支援のための取組） ・担任や教科担当による情報共有により、早めに問題傾向に気付く体制を整えるとともに、学生に対する声掛けを実践することで、学生が相談しやすい環境をつくる。また、保護者との面談を積極的に行い対応していく。 ・不登校傾向、人間関係の構築が苦手な学生に対して、クラス全体が一緒に卒業を目指すことを意識できる雰囲気を、教職員が誘導するなど、積極的に支援をしていく。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務専門課程	IT医療事務学科	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年		1,890 単位時間/単位	582 単位時間 /単位	1,076 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間/単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
20人	7人	0人	4人	4人	8人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>【教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）】</p> <p>専門的な知識・技能の習得を目指した主体的な学びを通して個々の能力を育成し、社会人として求められる豊かな人間性を養成できるカリキュラムを編成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キャリア教育を通して社会人基礎力と職業観の養成を図る 2. 探究学習における様々な体験をして豊かな人間性を養う 3. 企業ニーズに応える専門的な知識と技能の基礎を確実に習得 <p>また、学生が科目ごとに設定された目標を常に意識しながら、ステップアップを実感できるよう「目標達成型カリキュラム」を導入し、Step1 から Step3 まで段階的に短期目標をシラバスに明記している。また、目標設定シートに各自の目標等を記載し、月ごとに達成度と半期ごとの振り返りを実施している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>評価基準は 100 点を満点とし、50 点以上を合格とする。ただし、評価は単に試験の成績だけで決定されるものではなく、原則としてすべての授業について出席を満たしていることとし、試験の成績や平素の学習状況から総合的に厳格かつ適正に評価する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>進級および卒業は次の 2 条件を満たした者に対して認められる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①出席条件：半期を通して、欠席時限数が 1/3 を超える欠席科目が一つもないこと。 ②成績条件：各学年の必須単位をすべて修得すること。 <p>また、卒業認定については、教育目標に沿って設定した科目を履修し、企業における専門職として必要な知識・技術・技能を有し、社会的・職業的自立に向けた基礎的な能力や態度を身につけて自ら学び続ける能力と、社会・地域に貢献できる能力を備えたものに専門士を授与するものとし、卒業に関する方針や学生の習得単位数を踏まえた上で認定をする。</p>
学修支援等
<p>成績評価の時点で、合格に至らない者に対しては追・再試験、補講等を行う。放課後や長期の休みも教室を開放するとともに、教員がサポートをする。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
2人 (100%)	0人 (0%)	2人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
病院や調剤薬局における受付事務ならびに会計業務や社会福祉協議会等福祉施設における、介護職員および支援員など習得した資格・技能を活かせる業界			

<p>(就職指導内容)</p> <p>ジョブ・カードの作成や校内就職ガイダンスを通して職業観の養成を図り、早期にキャリアビジョンを明確にする。また時機に合わせた履歴書、面接指導等</p>
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>MOS・日商簿記・会計実務・電卓技能・医科/歯科/調剤事務技能検定・介護職員初任者研修</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
8人	1人	12.5%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>進路変更による退学。複数回の面談を実施し、本人の意思を尊重し、退学となった。</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任や教科担当による情報共有により、早めに問題傾向に気付く体制を整えるとともに、学生に対する声掛けを実践することで、学生が相談しやすい環境をつくる。また、保護者との面談を積極的に行い対応していく。 ・不登校傾向、人間関係の構築が苦手な学生に対して、クラス全体と一緒に卒業目指すことを意識できる雰囲気を、教職員が誘導するなど、積極的に支援をしていく。 		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
ITスペシャリスト学科	150,000円	450,000円	350,000円	実習費 150,000円 教育充実費 150,000円 施設管理費 50,000円
ITビジネス学科	150,000円	450,000円	350,000円	実習費 150,000円 教育充実費 150,000円 施設管理費 50,000円
IT医療事務学科	150,000円	450,000円	350,000円	実習費 150,000円 教育充実費 150,000円 施設管理費 50,000円
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.core.ac.jp/iida/download/34e1ffd213f44397ebde0f459dd0426be1fb4551.pdf (「学校評価」の「自己評価報告書」)		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 地元企業、商工業団体、行政ならびに管内教育機関である高等学校の長により委員を構成し、年1回以上の委員会を実施。学校が自ら行った「自己評価」の評価結果を踏まえ、その評価が適切に行われているかを評価し、学校関係者の学校への理解促進と連携協力により、学校運営の改善を図る。また、企業ニーズに応えるカリキュラムについての審議ならびに進路やインターンシップにおける意見を反映する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
みなみ信州農業協同組合	令和4年4月1日 ～ 令和6年3月31日	企業
飯田商工会議所	令和4年4月1日 ～ 令和6年3月31日	商工業団体等
飯田市企画部	令和4年4月1日 ～ 令和6年3月31日	行政機関等
高等学校	令和4年4月1日 ～ 令和6年3月31日	管内教育機関
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.core.ac.jp/iida/download/d1711c032475d723d37aef0ccc1cb538af7a9095.pdf (「学校評価」の「学校関係者評価」)		

第三者による学校評価（任意記載事項）

c) 当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）

<https://www.core.ac.jp/iida/>